

Meer en Bosch 回想

弘前大学名誉教授

福島 裕

最近、ある先生から Meer en Bosch が整理、再編されるらしいという話を聞いた。オランダの Meer en Bosch といえば、1910 年の *Epilepsia*(第 1 シリーズ、第 2 巻)にすでに紹介されているように、ヨーロッパ、いや、世界屈指のてんかんセンターとしてその名が知られている。オランダの医療福祉の事情とヨーロッパ統合の流れの中では、整理再編もやむを得ないことなのだろうが、Meer en Bosch の名がなくなるとしたら、まことに寂しい。Meer en Bosch とは「湖と森」といった意味である。そのたまたまは、まさにその名にふさわしい。もっとも、このてんかんセンターを Meer en Bosch と呼ぶのは今では正しくない。つまり、現在では、Meer en Bosch は Instituut voor Epilepsiebestrijding の一施設であって、そこから数キロ離れたところにある De Cruquishoeve(慢性期患者のための施設)とともに、その Instittiuut を構成しているからである。

私が Meer en Bosch に滞在したのは今から 20 年も前のことである。その時には、Meer en Bosch を拠点に、オランダをはじめヨーロッパ各地のてんかんセンターを訪ねあるき、とくに、リハビリテーション活動の実態を見聞したのだが、それらのてんかんセンターのいくつかは、そのルーツが、19 世紀に設立されたてんかん患者のための保護施設であることを知った。もちろん、Meer en Bosch もそうである。

ところで、Meer en Bosch に滞在している間のこと、Meinardi 所長の部屋の書架に *Epilepsia* 誌が、その第 1 シリーズから揃っているのを発見して大変感激した。というのも、私には(多分、日本では)、それら、初期の *Epilepsia* 誌は話に聞くだけの「幻の雑誌」であったからである。1909 年に発行された *Epilepsia* 第 1 シリーズ、第 1 巻には、国際抗てんかん連盟(ILAE)の設立総会とその第 1 回大会に関する記事が掲載されている。もっとも、「国際」といっても、当時のそれは、どうみても、ヨーロッパの ILAE であった。

Epilepsia 誌は、その第 1 シリーズが 1909-1915 年、第 2 シリーズは 1937-1949 年、第 3 シリーズは 1952-1955 年が、それぞれの刊行期間である。つまり、各シリーズの間には、一定の中断期間がある。現在の *Epilepsia* は第 4 シリーズであり、それは 1959 年に Elsevier によって蘇生させられ、その後、Raven に引き継がれたものである。そのそれぞれの中断の事情についてはここではおくとして、*Epilepsia* 誌の記録を読むと、ILAE に携わった人たちのてんかんに対する想いと脈々たる執念をみることができる。もちろん、そこには、度々、Meer en Bosch とその関係者の名が出てくる。

Epilepsia 誌の中断は ILAE の組織としての活動の状況を反映している。つまり、第一次・第二次世界大戦と戦後の混乱、ILAE の在り方、非専門家集団の独立(IBE:国際てんかん協会の成立)、雑誌の編集方針(scientific か、sociomedical か)、財政状況などの事情が絡んで

いた。その経過の中で、アメリカは次第に力をつけ、とくに第二次世界大戦後には、アメリカが **ILAE** に大きな発言力をもつようになってゆくのである。

話の焦点が **Meer en Bosch** から **Epilepsia** 誌と **ILAE** の歴史へと移ってしまったが、**ILAE** の歴史の概要については、「国際抗てんかん連盟と **Epilepsia** 小史」(Goletiani,N.著、福島裕、八木和一訳)に見ることができるので、ご参考までに記しておく。